

「特別支援教育」

1 テーマ 高等学校における特別な支援を要する生徒の卒業後を見据えた指導・支援に関する研究 ～特別支援学校のセンター的機能の活用～

2 テーマ設定の理由

高等学校においては、特別な支援を要する生徒が、卒業後も社会から孤立することなく、進学先や就職先等で充実した学びや生活が実現できるよう、生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援を行う必要がある。また、特別支援学校には、地域における特別支援教育を推進する上で中核的な役割（以下、特別支援学校のセンター的機能）が求められており、特別支援教育に関する高い専門性を生かしながら地域の学校を積極的に支援していくことが期待されている。

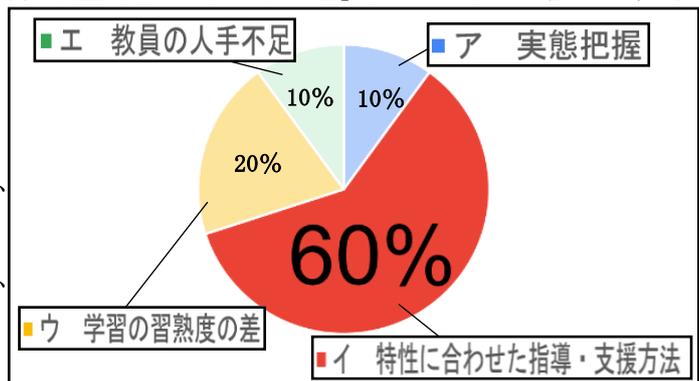
このことを踏まえ、高等学校卒業後を見据えた指導・支援と特別支援学校のセンター的機能の活用の在り方について追究する。

3 概要

令和5年度は、校内における特別支援教育を推進している高等学校A校と、校区内でセンター的機能を発揮している特別支援学校B校の2校に研究協力を依頼し、調査・研究を行った。A校は、特別な支援を要する生徒のために特別支援学校や専門機関等へ相談を行ったり、特別支援学校と連携して授業を行ったりしている。B校では、中学校生徒への通級による指導、高等学校への授業参観及び生徒への教育相談やSST(ソーシャルスキルトレーニング)授業等を行っている。

A校に対しては、当センター指導主事が訪問し、特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実に向けて、生徒の実態把握や専門機関との連携方法に関する協議等を7回行った。B校に対しても、当センター指導主事が訪問するなどし、B校が行うセンター的機能の充実に向けて、SST授業の内容検討や授業参観を通しての振り返り等を含めた協議を11回行った。まとめとして、両校にアンケート調査を行い、以下の結果が得られた。

A校職員の「学習場面で生徒に指導・支援する上で困っていること」についての回答では、「特性に合わせた指導・支援方法」の割合が60%と一番多かった。具体的に困っている内容としては、「文章の読み書きに苦手さを抱えている生徒への指導に困っている。」、「職員間の連携に難しさがある。」等の声が聞かれた。様々な困難さを感じながらも、生徒のために、有効な指導・支援方法を日々模索している姿勢が明らかとなった。



B校職員の「高等学校との連携で、今後取り組みたいことやさらに深めていきたいこと」についての回答では、「生徒の実態把握に関する支援」、「生徒の特性に合わせた指導・支援に関する助言」、「生徒への障害理解教育やSST等の授業」という授業連携に関する項目を合計すると50%となった。この他にも、「職員への研修支援を行いたい」という回答もあり、特別支援学校が有する専門性をより発揮し、高等学校への支援及び連携を進めたいという意向を感じた。

特別な支援を要する生徒の充実した学びや生活の実現を目指して、次年度も両校に研究協力を依頼し、高等学校における特別な支援を要する生徒の卒業後を見据えた指導・支援と特別支援学校のセンター的機能の発揮や活用の在り方等についての調査・研究を行う。